

※ どのファイルのリストアが必要かは、**STARTUP** コマンド発行時のエラー・メッセージ出力より、順次判断する必要がある

手順 3.

データベースをマウント状態で起動する

```
sqlplus /nolog
```

```
conn ユーザー名/パスワード@接続識別 as sysdba
```

※ Oracle インスタンス未起動時は、Oracle ユーザーでの接続は出来ないので、
OS ユーザー認証で接続を行う

```
conn / as sysdba
```

```
STARTUP MOUNT
```

手順 4.

リカバリ処理を行う（**アーカイブ REDO ログとオンライン REDO ログの適用**）

```
RECOVER DATABASE USING BACKUP CONTROLFILE  
UNTIL CANCEL;
```

〔 ※ USING BACKUP CONTROLFILE は、コントロールファイ
ルをリストアして戻した時に使うオプション 〕

ログの指定 : |<RET>=suggested | filename | AUTO | CANCEL |
AUTO

キー入力して続行させる

ORA-01194 : ~~~~~ さらにリカバリが必要です
と表示されて終了された場合

```
RECOVER DATABASE USING BACKUP CONTROLFILE  
UNTIL CANCEL;
```

ログの指定 : |<RET>=suggested | filename | AUTO | CANCEL |

オンライン REDO ログ・ファイルのファイル名を入力する (更新日時の古い順に指定)
/app/oracle/oradata/ora10g/redo01.log

※ 「メディアリカバリが完了されました」と表示されるまで繰り返す

※ RECOVER コマンドでのオンライン Redo ログの適用は、1 回のコマン
ド処理では 1 個のみなので、オンライン Redo ログを複数個適用する場合
は、RECOVER コマンドを繰り返す

制御ファイルをリストアした時は、
リカバリを行うためには、**RECOVER DATABASE
USING BACKUP CONTROLFILE** UNTIL CANCEL
の指定を行う必要がある。

詳細は、Oracle バックアップ・リカバリ実践テクニック

手順 5.

データベースをオープンする

~~ALTER DATABASE OPEN ;~~

~~もしくは、~~

~~ALTER DATABASE OPEN NORESETLOGS ;~~

~~もしくは、~~

ALTER DATABASE OPEN **RESETLOGS** ;